

子供のやる気を育てよう

2005年10月6日(木)pm1:30～ 大島武先生

『大島 武先生の講義』～家庭教育学級のお誘い～

子供たちの健やかな育成の為に保護者が学習する機会が家庭教育学級。が開催され、講師に大島武先生をお迎えしての楽しいひとときでした。テーマは子供のやる気を育てよう!ということで興味津々。『親と子のコミュニケーション～よくある間違いとその改善～』『親に出来る4つのこと』など、わかりやすく、これから子供たちと接していく上で、参考になるお話ばかりでした。ちなみに大島武先生は大島渚監督さんの息子さんで、小学校時代に尊敬できる先生と出会い「先生になりたい」と思い続け先生になったという根っからの教育者。子供からいろいろなことを学んだという先生の教えは楽しくわかりやすいです。

「1. パフォーマンスの時代」

略)行為主体はく他の人々のために)パフォーマンスを提供し、ショーを演ずる。

(E.ゴッフマン『行為と演技』誠信書房P19)

●子供は子供らしく ●親は親らしく ●教師は教師らしく ●医者医者らしく

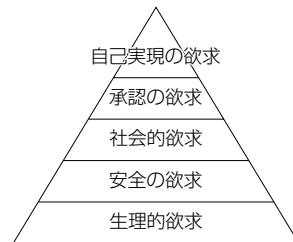
日常はショー、パフォーマンスと考えると日常＝演技ではないだろうか。日常のすべてが演技ではないことは言うまでもない。しかし、どこからどこまでがという線引きは容易ではない。それは1人がある時は『娘』として親と接する、家へ帰れば『母』だったり『妻』だったり…、においての役割分担と考えると日常というのはショーあるいはパフォーマンスと考えられるのではないだろうか。

ある時病院で老人の下の世話をしていた看護師が「ダメでしゅね～」等と赤ちゃん言葉で接していたのを見たときに違和感を感じた。老人に対して失礼ではないかと。しかし、老人がお漏らしをしまったという羞恥心をなくす為にわざわざ赤ちゃん言葉で接することもあるという。どちらの意見も間違いではない。それぞれの立場で接していくというのが大切。

「2. 子供のやる気を育てるには」

(1) A. マズローの欲求五段階説

- (1) 生理的欲求(トイレ・寝る・飲みたい・食べたいetc)→
- (2) 安全の欲求(今の状態(衣食住が足りた時))→
- (3) 社会的欲求(まわりとの関係(友達etc))→
- (4) 承認の欲求(自分の方が高く評価されたい(プライド))→
- (5) 自己実現の欲求(自分らしく生きること) の5段階。



(1)から順に満たされていないと次の欲求は生まれにくい。例えばお腹がモーレツに空いてる人にはまわりの人との人間関係なんて考えられない。というように一つ一つの欲求を満たしてやることで自己実現・自分らしく生きるということにつながり、社会へ出てからの自分を見つけることが出来る。

(2) 「成功体験」がやる気を生む

●ビッグマリオン効果

自信を生み出す唯一の要素→小さな体験の積み重ね。周囲の「期待」が好結果をもたらす→期待効果。プラス思考で「出来るよ、出来るよ」とふっていく「期待」が、結果好成績につながる。そーして、たくさんほめる。ほめられたという感覚。→自分は何でも出来るんだという『万能感』。

その『万能感』を壊す↓。

(3) 「失敗体験」が子供を成長させる

●「万能感」の崩壊

自分は何でも出来るという思いがある時壁にぶつかる。『万能感の崩壊』。少しずつ壊していくことが大切。頑張っても出来ないこともあるんだな～と悟り、自分にはこれが出る、これは苦手と理解する。

あいまいな万能感ではダメ。大人になってからやりもしないのに自分では何でも出来るつもりになって、ニートや、転職ばかりで定職に就けない人が生まれてしまう。あいまいでなくしっかりした『万能感』を先に創り、それを少しずつ壊してやるのが、自分を見つけることにつながっていく。

『親に出来る4つのこと』

- **ほめる** 大島先生が私立の有名塾の講師時代、黒板を見ないで生徒の方を見て文字を書く練習をさせられたという。先生が黒板に向かってしていると遊んでしまう子供がいるから、生徒から目を離さずに後ろ手に文字を書いたという。もう一つ、大きくほめる練習。「そう!! そうだね!!」と派手に声に出してほめてやる。大人でもほめられれば嬉しい。子供ならそれがさらに自信につながってく。
- **励ます** 子供の弱点をよく見る。何故弱点何だろうをよく見て、何をどう(具体的に)頑張るのか提案する。
- **見守る** 何か言ってくるのを待つ。
何もしないで見守るというのも一つの親の出来ること。
- **しかる** 良いときはほめる。悪いときはしかる。子供のうちはしかられ慣れた方が良い。子供の時にやっておかないと大人になってから上司などにしかられたときにショックを受けて立ち直れなくなってしまう場合がある。

「3.親と子のコミュニケーション」

(1)大切なのは「好き嫌い」と「一貫性」

・親の好き嫌いをはっきりさせる。○○だけは絶対イヤだ、という親のこだわりを子に見せる。
・常に一貫した態度でいる必要性。これだけは～というもの、いついかなる時もダメな物はダメなど。
例えば、親が怒ったときに何故怒っているのか子供に想像させる。こーゆう理由だから怒っているんだな、と。それにはわかりやすい主張が大事。わかりやすいお父さん、お母さんであれば、子供は訳がわからなくて怒っているんじゃなく、理由があるんだなと想像できる。

(2)良い警官と悪い警官戦術

・好意の返報性→人は相手の好意を返そうとする。夫婦でおたがいをほめる。親子も同じ。
・人は相手のペースにのりたくない→親が完璧に子供をコントロールしようとするとうダメ。ある程度まではコントロールしていつて、最後はさも自分が決めたとおわせるようにする。子供が自分で決めたことだから最後までやり通さなくちゃ、と思うことが大切。(勉強・習い事など)
・刑事ドラマの怒鳴る警官(悪い刑事)と肩をたたいてカツ丼をとってくれるような警官(良い刑事)の両方が必要。学校、家庭内(父・母・祖父・祖母)、地域環境などで役割分担しながら接していく。片親の場合は替わりになってくれる学校や、自分の兄弟、親などと接していきながら関わっていく。

(3)言いたいことをしっかり伝えるには～プレゼンテーション～

内容をよく把握×表現＝効果 表現の中で怒ったりするときには心を落ち着かせ、少し頭の中で整理してから怒るなど。その言い方も2つあればよい。軽めと重め。6段階あってもその微妙さがわからないので。

(4)ロールモデルの効果

- ・とことん合わせる→子供にしてもらいたいと思うことを自分がやってみる
- **アリストテレスの話し方3要素**→人前で話すとき
 - ・ロゴス(論理)理屈が合っている
 - ・パトス(感情)誠意があること
 - ・エトス(人格)話し手の人格を尊重するような子供に接する時もこの3要素が大切。

「3. 親と子のケーススタディ」

ケース1

Aさんの娘のB子さんは小学校6年生。低学年の頃は親の言うことをよく聞く、とても素直な子だった。5年生ぐらいから少し態度が悪くなり、今も、反抗的というほどではないが、注意しても「はーい」とつまらなそうな返事。もっと厳しく言った方がいいのか、それともしばらく放っておいたほうがいいのか、Aさんは迷い始めた。

答え：

ケース2

Cさんの息子のDくん(小学校3年生)が青ざめて学校から帰ってきた。「ぼく、Eさんと2人で線路の上に10円玉置いたの。ペしゃんこにしたかったから。そしたら電車が止まって、運転手さんが窓から顔を出して『それをどける』って。すぐにどけて逃げてきたの。どうしたらいい？ 警察に捕まっちゃうの?」。Cさんはどのように対応したらいいのだろうか。

答え：

ケース3

Fさんの息子のGくんは小学校4年生の2学期から突然学校に行かなくなった。驚いたFさんはすぐにカウンセラーに相談したが、「しばらく様子をみたまほうがいい。無理強いをしないように」との回答。でも、家でごろごろしている子供をみると、焦りがつのる。何か言葉をかけてやりたいが……。Fさんはどうしたらいいのか。

答え：

ケース1

答え：今まで通り。一貫性の問題。急にやめたり、いきなり強くなったりしないこと。耳に入っているから続けた方がいい。大人になって「あのときうるさく言ってたのってこれか〜」や、「そ〜いえばこんなこと言ってたな〜」と思い出すことがあるから。

ケース2

答え：正直さをまずほめる。よく言ってくれたね。と、まず認めること。これをしないと今度は悪いことを報告せず、隠すようになってしまう。悪いことはしかる。ただ、ママが味方になって、何かあったらあなたを守るからという姿勢が大事。例えば、警察などがもしきたときには、ママが出ていって対応するなど。

ケース3

答え：どうして行きたくないか？と聞くのはダメ。私には理解できない、私の考えとしては学校に行ってもらいたい、と自分の気持ちを伝える。人にはそれぞれの気持ちがあるということをはっきりさせる。あなたの気持ち・私の気持ち・先生の気持ちなど。そしてチームプレイで取り組む。子供・親・兄弟・学校など。学校は銀行やコンビニではない。先生は先生らしく、先生には先生の考えがあるよと教える。